

## 第20回

書道監修・執筆 長野秀章

# 自分の書を創造する! ~創作~

### 今回学ぶこと

今回は一年間の成果を発揮して、自分の書を創作する。書の創作には二つの表現が含まれている。まず、書きたい言葉を考える、言葉の表現。そしてその言葉を書で表す、書の表現だ。自分の言葉をつむぎだして、自分だけの作品を作り出そう。

学習前チェック! 用語の意味を確認しておこう

書体／書風／字典／篆書・隸書・草書・行書・楷書／印

## 古典を生かす

書の創作では古典の書体、書風が参考になる。

番組では後漢時代の「開通褒斜道刻石」とその書体・書風を生かした創作を比較した。「開通褒斜道刻石」は褒斜道という道路が開通した記念に、岩に刻まれた書。隸書で書かれている。創作では古い時代の隸書の書風が生かされている。

篆書、隸書、草書、行書、楷書、さまざまな書体を生かして創作に取り組もう。

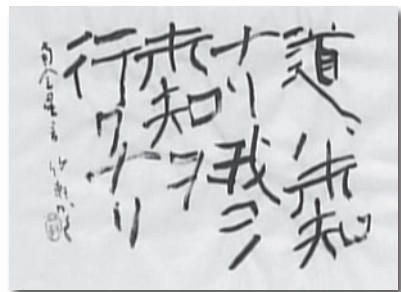
書体書風を決めるときには字典が役に立つ。

## 書の構成

書体、書風を決めたら、書の構成を考える。作品の大きさや形式、文字の配置や余白、全体の構成を工夫しよう

### 今回のお手本

達人の書（長野秀章）を参考にしよう。



(隸書を元に創作)

### 創作の手順

- ①書きたい言葉を決める
- ②表現方法（書体、書風）を決める
- ③構成を決める
- ④用具・用材を決める
- ⑤書く

う。書の構成を考えるとときは、白（余白）を意識することが大切だ。

書体、書風を選ぶときや、書の構成を考えるとときにはパソコンが活用できる。

古典の資料や字典をパソコンに取り込んで、画像編集ソフトなどで文字の大きさやレイアウトを工夫しよう。

## 印を押す、落款

書を書き終わったら最後に大切な表現がある。落款<sup>らっかん</sup>とは、作品に自分の署名をして印を押すことだ。

番組では、署名して「篆刻」の回で作った自分の印を押す。

印を押すときには、押す位置を良く考えて決めたら、印泥<sup>いんでい</sup>を丁寧につけて、しっかりと押す。落款は作品の完成と作者を証明する書の大切な要素だ。

### 達人からひとこと！

書表現するということは、音楽で言えば好きな曲を歌ったり、楽器ができれば演奏したりすることと同じです。今の自分を素直にそのまま表現する方法の一つとして書道をこれからも身近な表現ツールとしてみましょう。

その表現をする手段として、教科書やパソコンなどを活用して原稿や試作を作成してみてもよいでしょう。

その際は、筆で文字（墨）を構成しながら同時に余白（白）をどう残すのか、言い方を変えると「白」を描くつもりで紙面全体の構成を考えてみるのもよい方法です。

みなさんは筆を持つと失敗することを恐れがちになりますが、友達に何か話しかけるとか自分で何かを“つぶやく”というような軽い気持ちで失敗をお恐れず積極的にトライしてみましょう。

例えば、漢字仮名交じりの書の表現などは、短い日記を書くくらいの気持ちで書を自分の身近な表現として、自分にしかできない“アート”をこれからも楽しんでください。



達人

長野秀章